

大津百町瓦版

大津・町家・まちなか・いろいろ情報

秋 季 号 [No. 27]

2015年 10月

発行 大津の町家を考える会

大津市中央1丁目8-13

TEL・FAX 077-527-3636



逢坂山周辺のトンネル事情

七月二四日、「大津の町家を考える会」が主催する『萬塾』で、明治一三年西欧の技術者に頼らず日本人の手で初めて造られた鉄道トンネル、旧逢坂山トンネル（近代化遺産）を訪れました。その講座のことは今号の『萬塾』報告で詳細が報告されています。

そのとき気が付いたのがこの逢坂越え（峠）を挟む長等山と音羽山周辺にトンネルが予想以上に多いことでした。

今回訪れた「旧逢坂山トンネル」明治一三年（一八八〇年）に開通したこのトンネルが大津に掘られた最初のトンネルですが、その後、明治、大正と第一疏水、第二疏水、旧逢坂山第二トンネル、京阪の大谷トンネル、現東海道線の上りトンネルと、七ヶ所のトンネルが開通します。さらに昭和になつて鉄道・道路トンネルが多く開通、また新幹線、湖西線とトンネルは瞬く間にこの周辺になんと二〇本近くものトンネルが出来ました。この地域だけでなく、大津市全域をみても本当に沢山のトンネルがあります。ちよつと想像してみました。がこれだけトンネルの多い県庁所在都市も珍しいのではと思いました。

良質の湧水が無くなる

これだけトンネルが多いと山からの湧水は当然枯渇します。名所絵図や浮世絵にも描かれてきた歴史的に名高い、蟬丸宮の「関清水」、一遍上人絵図に描かれた「関寺の湧水池」、走井や長安寺の滝、近松寺の井戸、三井寺の関伽井をはじめ同寺内国宝庭園の泉水もことごとく枯渇したそうです。銭湯人気一番の「小町湯」も当初は湧水を利用していたそうですが、今は地下45mから汲み上げており、江戸末期から明治にかけて大津の町なかにあった「長安寺水道」、湧水井戸を利用した「大練寺水道」等町衆のための水も無くなりました。

「会員 雨森」

伏見・京から追分・大谷・大津へ



【伊勢参宮名所絵図・大津追分】

この所東国より来る人、宇治・ふし見・京への別れ道なり。故に追分といふ。これより惣名を逢坂ともまた大津ともいへり。札場の傍らに柳緑花紅の標石あり。これに添ふたる文。六地藏・鏡が辻といふ所に標題なくて文ばかりあり。この追分より大津領にて町つづきなり、針・算盤・大津絵などの店多し



昔から大津は追分から始まり追分に終わる、とにかく江戸時代の名所絵図や伊勢参宮絵図を見ても、追分の風景が相当賑やかな様子が描かれています。

誇張して書かれているのでは？と思われがちですが、大津歴史博物館の専門家に聞くと、当時の観光案内書も兼ねていたので誇張ではなく当時の様子をほぼ忠実に描かれているそうです。

現在は、京・山科側から大谷・逢坂山の間と言えば国道一号線が山際まで迫り、京阪・京津線と名神高速道路があって、いまは人家も少なく殺風景な街道筋で特筆すべき商店もありません。

名所絵図の時代に

追分の手前になる京街道や伏見街道沿いから賑わいも徐々に大きくなって横木から大津へ入ると一段と賑やかで、茶店はもちろん大津絵を売る店や池乃針を売る店が軒を連ね、売らんかなのかしましい声が響き渡っていたようです。

追分からの大津百町は、当時の町名から見ると、髭茶屋町、南追分町、北追分町、下火打町、上火打町と続き、京街道からの途中に閑栖寺があって現在も同じ

ように建っています。閑栖寺には往時の道標や車石があつて逢坂越えの東海道が再現されています。

この閑栖寺、疏水の設計施工に当たった田辺朔朗氏が寄宿されていて、寺域を流れる水路をレンガ敷きにするよう指導されたとか？



痛々しい追分の道標

昔の旅人は行きも帰りもこの辺りでは、茶店に寄り土産物に大津絵、池乃針、走井餅を買い求めていたようです。

名園『月心寺』と走井

そして大谷の途中で銀閣寺のお庭と同じ相阿彌が作庭したと云われるお庭のある月心寺があります。

ここは、明治になり東海道線が通じ電車が大津まで走るとなつて、かつての賑わいがみるみる寂れていきました。

この頃ここを訪れた、日本画家で有名な橋本関雪はこの月心寺やお庭が解体されると聞くと、当時銀閣寺の畔に新邸を造営している時でしたが、無理をして買い取ったと言います。走井を見て驚くのは、本当に綺麗な冷たい水がいまも湧き出ているのです。



瑞米山 月心寺



閑栖寺



当時の牛車の様子



湧き出る月心寺の走井

本当にいま想像は出来ないですが、大谷界限は逢坂越えまで何ヶ所も水が湧き出ていて、何ヶ所かの茶店では走井餅やお饅が販売され、さらに大津が発祥と言われる算盤制作をする業者が軒を連ねていたようです。



【 算盤発祥片岡家の碑と元祖走井餅本家跡の碑 】



走井は此 ほとり三名水の其一にして 炎暑の時ハ旅行の舌を潤なり 四時ぼきつとして涌出し清冷甘味なり

『町家と畳』 畳は素晴らしい！

「大津の町家を考える会」が財団からお借りしている『まちづくり大津百町館』には、現在“大津間”と呼ばれる畳が一階では32畳分敷かれています。畳の無い町家って皆さんは考えられますか？そんな畳の事をご近所の鵜飼畳店のご主人にお聞きました。

『畳信』 鵜飼畳店の始まり

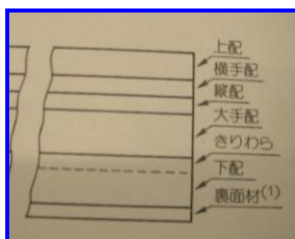
そもそも『畳信』は、京町通り（東海道）と中町通りには町家と借家が多くあり需要があると見込まれた北川信次郎（初代当主）さんが、明治元年に現在の場所で創業されたそうです。その後、鵜飼さんのお祖父さんが北川さんのお嬢さんと結婚され、『畳信』は鵜飼畳店が引継いで今は4代目で、もうかれこれ150年になるこの界限でも歴史ある老舗です。現在のご主人が仕事に就かれた当初はまだ畳の需要も多く、お父さんも腕のたつ一級の職人さんで、店には沢山の職人さんを抱えておられたそうです。

畳は日本の風土に適している

畳は韓国や中国からの到来物ではなく、私達祖先の知恵が生み出した我が国固有の物で、湿度が高く気象変化の激しい風土に最も適した敷物として育てられ、継承されてきました。

もう今では畳の中を知る人も少なくなってきましたが、まず稲藁を縦横に敷き、締めて畳床を作り、イ草を織った畳表を張り仕上げます。

こうした畳は二酸化炭素を吸収して、空気を浄化しますから、適当な湿気と空気が必要になります。右の図面は一級品の畳の断面図です。①上からイ草表、



②稲藁を横に ③稲藁を縦に ④稲藁を敷詰める ⑤きり藁を入れる ⑥そしてまた稲藁 ⑦最後に裏面材となります。しかし、現在ではこんな畳は注文も少なくお目にかかるのは修繕の時ぐらいです。

畳一畳の重さはどれくらい？

高級なお座敷やお寺、茶室に使用されたこの様な一級品の畳ならば一体どれくらいの重さになるのかなと聞くと、驚きましたなんとその重量は35～38キロもあるそうで作業場での持運びも大変とのことでした。

これから畳はどうなる？

鵜飼さんにこれから畳はどうなるのか聞いてみました。

畳は空気や湿気を吸う効果がありますが、冷暖房の普及によってその役目が要らなくなってきました。少し前



【 大津百町館の畳の間 】

までは新築家屋の場合畳の間は4部屋位はあって二十畳以上ありましたが、最近の新築家屋はあっても二間十～十二畳程度で、マンションでは一間四畳半～六畳と激減しています。

畳は室町時代から武家・公家屋敷や書院造りに広がりますが、当初は必要なところに畳を移動させて、使うやり方であったことを見て見ると、これからは昔に戻って必要に応じて畳が使われる生活様式になってきていると思う。すでに琉球畳や半畳タイプなどいろいろな畳が作られ量販店で売られているし、またお寺でも本堂は板の間でイスを並べるところが増えてきており、これから先町の畳屋は減少していくのではないかと考えているとお話でした。

小学生から見学お礼文

まちづくり『大津百町館』で昔の物をいっぱい知りました。

瀬田北小学校3年生

6月18日 瀬田北小学校の3年生はなんと190名もの生徒がどっとやってきました。

○ あけちさんたちには古いものや道具をいっぱい見せてもらい、ぼくたちに場所のあんないをしてもらったことはほんとうにかんしゃしています。あけちさんたちを見て、ぼくもあけちさんたちみたいになりたいです。

○ いろんなむかしの事をおしえてくれてありがとうございました。そろばん、いど、かまど、アイロン、いろいろむかしの物がわかりました。クイズもしてくれてありがとうございました。楽しかったです。せつめいとかもよく分かりました。



○ 校外学習で、古い物や、古いへやを見せてくれてありがとうございました。いろいろべんきょうになりました。「むかしは、こんなくらしかたをしていて、こんな物をつかっていたんだなあ」とおもいました。これからも、おからだに気をつけてがんばってください。そして、115才の家もまもってあげてください。

○ ぼくはイドやかま、くら、を見せてもらいました、115才の家は、本物の家なので楽しかったです。ぼくは家族といっしょに来たいです。クラは大事な物を入れる場所ということがわかりました。むかしのアイロンクイズもおもしろかったです。クイズにひっしになって楽しかったです。

○ 校外学習の時はお世話になりました。古い物をわざわざ見せてくださって本当にかんしゃしています。はじめて百町館に行った時は「どんな所だろう」とドキドキしていました。古い物をせつめいしてくれてとてもよくわかりました。

○ このまえはふるい物を見せてくれてありがとうございました。私はふるい物を見るのが大すきです。わたしはイドを見たことがなかったので「見たいなあ」と思っていました。でもイドも見れたし、イドの水もさわれてすごうれしかったです。ほかにもむかしの物がいっぱいあったのでびっくりしました。わたしもむかしの物をあつめていきたいとおもいました。

○ 皆さんにむかしのことをいろいろ教えてもらい、すごくよくわかりました。むかしはイドから水をくんでいたとわかりました。もしかするとむかしはとてもすごしにくい時代だったのかなあと思いました。

○ むかしの事やあんないをしてくれてありがとうございました。おかげでむかしのイドの事やむかしのアイロンの事がわかりました。見せてくれてありがとうございました。

○ 六月に古い家の所を見せてくれてありがとうございました。戦争がおこったのによく家がたえてすごいと思いました。115歳でしたよね、ずいぶんとしをとっているんですね。いろんなへやを見せていただきありがとうございました。お体を気をつけてまたいつかおあいしましょう。

藤尾小学校3年生

6月19日 藤尾小学校の3年生は前日の瀬田北小学校と違い29名ゆっくり説明できました。

○ 先日社会科の学習でお話をうかがった藤尾小学校3年1組の者です。この間は仕事の時間中なのにしんせつに答えてくださって本当にありがとうございました。イドたいけんをさしてくださってありがとうございました。

○ あつい日がつづきますが、お元気にすごされていますか。百町館は、大津のれきしがいっぱいつまっている場所だなあと思いました。これからもお体に気をつけてお過ごしください。

○ この間は、お仕事の時間中なのに色々おしえてくださって本当にありがとうございました。わたしは黒でんわがとてもおもしろいとおもいました。

○ この間は、しつもんにも答えてくださって本当にありがとうございました。イドが5メートルもあることをおしえてくださってありがとうございました。また、行くきかいがあったら行きたいです。

○ この間うかがった藤尾小学校3年1組のものです。質問に答えてくださって本当にありがとうございました。はじめて知ったことがたくさんありました。わたしはむかしのものを見てうれしかったです。

○ この間はいろいろな物を見せてくださって、本当にありがとうございました。いろいろな話がきけてうれしかったです。いどの水がためたくてびっくりしました。

○ この間は色んなものを見せてくれて、本当にありがとうございました。こんなに色んなものがあるとはじめて知りました。



『萬塾』第二回、第三回終える

7月24日「旧逢坂山トンネル探訪」



今回の「旧逢坂山トンネル探訪」は2011年の『萬塾』でも実施しました。

その時も大好評でしたが、今回も計画をして募集したところ、直に定員(25名)オーバーのキャンセル待ちとなりました。

地元中央学区の皆さんへの案内が遅れたため、参加申込みされた方には大変ご迷惑をお掛けしました。

当日は、25名(他幼児1名)が、上栄町駅に集合してトンネルに向かいました。

旧トンネルは現在京都大学が1970年に地震予知研究を目的に「京都大学防災研究所附属地震予知センター逢坂山観測所」が設立されました。

前回同様、今回もここで観測・研究されている森井先生に案内をお願いしました。森井先生は自ら作成されたパネルを前にして地震観測所としての役割や計測器についての説明。その後全員ヘルメットを装着し、トンネル前で各自の氏名と入坑時間を記入して入坑しました。

トンネル内は頭上からは地下水がポタリポタリ、内壁は蒸気機関車の吐く煙によるススが真っ黒にこびり付いています。



内部は気温14℃～15℃としばらく居ると寒くなってきます。湿度は90%以上という状態。このトンネル内に昭和20年の終戦間際に三菱の工場が移設され女学生が勤労奉仕で働いていたそうです。この環境での労働は大変だっただろうと先生は話されていました。

当日の参加者の感想

ちょっとした地底探検の雰囲気でした。

明治10年代の前半に、生野銀山の鉱山労働者たちによって、ほぼ手堀でつくられたトンネルが、戦前にその役割を終え、いまは地殻変動の観測所として利用されているとのこと。思わぬ第2(戦時中の工場をいれると第3か)の人生を歩むトンネルに、数奇の運命を感じました。

8月30日「江戸時代の大津祭」

この講座は、古くからある地元の「大津祭」の事を知りたいとの声を聞き開催したものです。

当日は曳山連盟の中野さんを講師に迎え16名の参加者がお話に聞き入りました。講師は最近まとめられた「大津曳山祭総合調査報告書」他「四宮祭礼牽山永代傳記」等をレジュメに、いろいろ江戸時代からの祭りの移り変わりや当時のエピソードを交え、二時間近くに亘ってお話をお聞きました。



祭の原型はいつ頃?

大津祭が現在の様な型になったのは、四宮祭礼牽山永代傳記に「寛永15年(1638)より、三ツ車を付け候て、丸太材木をかり、祇園会鉾形の山を立て、梶取り手木遣を雇い、毎年神事に牽き渡し候こと…」書かれています。

朝鮮通信使がお江戸へ日延べ

「正徳元年(1711)9月1日神事のところ、8月26日朝鮮国より献上の馬鷹大阪着船、9月1日この大津通行これ有るべく様子につき、神事引き伸ばしのところ、情報が違って通信使は9月12日に大津通行ゆえ、9月7日に神事これあり候・・・」

お侍様が通られるときは笠を取る

「牽山の儀、町々の印し付け古来より笠をきせ相渡り候ところ、御役方様出役これある所にて出張りなされ候間、山引点頭笠これまで政道いたしとらせ相きたりそうえども多くこれあり、人込雑集中にて相取らせ候儀甚だ混雑いたし、また雇い人の者どもゆえ乱髪長髪ども多くこれあり、甚だ見苦しき候により、この段笠を取らなくてもいいように、申し上げたところ、当年よりかむり成りにてとらずでも相渡り候・・・」

このように江戸時代から現在まで、色んな話題があったことが良く分かり、大津祭約400年の歴史を勉強することが出来た講座でした。

ほんものガラス工房

川口公園の京阪電車のすぐ横に、ガラス工房ができていました。以前、2階で帆布の鞆を作っておられた方がおられた建物の一階です。鞆屋さんはどこに行かれたのでしょうか？

小さなお店の左半分にはバーナーがあつてガラス工房、右半分はカウンターがあり、バーになっていました。

お話を聞くと、やっているのは湊秀樹さんという方で、20歳代はバーテンダーをやっていた、30歳頃からガラスを始めて、小樽、長浜で修行をして、東京ガラス工芸研究所を卒業されたそうです。8年前に大津に来て、最近このお店をオープンされました。自ら手作りでお店にするまで3ヶ月かかったそうです。作っておられるのは、バーナーでペンダントなどのアクセサリと、電気炉



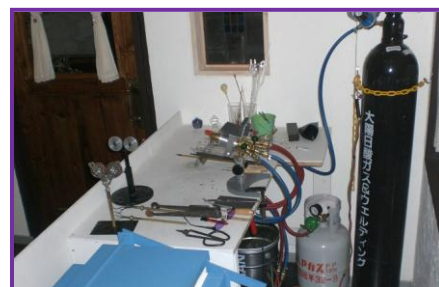
で器も作っておられます。結構大きな器も作れるそうです。瀬田のガラス作家天下さんの後を継いで、三橋節子美術館のガラス教室の講師をやっておられます。アクセサリや器をデザインして注文すると作っていただけです。とってもお洒落なお店で、お勧めです。

場所 浜大津3丁目8番3です。ガラススタディオのオープンが、土・日曜日が水・土曜日20時〜0時です。連絡先 TEL 09 3920番

E-mail glassbarporto@gmail.com



並べられているガラス作品



芸術(音楽)の秋がやって来た！ 第7回大津ジャズフェス



この秋、17、18日のジャズフェスを始まりにいろんな形の音楽会が開催されます。

まちなかの無料ジャズライブはそれこそ無数に！そして有料のライブ\$コンサートも多くあって、その選択に苦労するほどです。また、大津駅前にはおもてなしオープンカフェも出店されるそうです。



大津市史 等書籍の寄贈頂きました

今年になって「大津の町家を考える会」に貴重な本を故川端三郎様より寄贈頂きました。

一つは昭和53年発行の「大津市史全10巻」、そして最近に発行されたカラー写真の豊富な「大津の歴史上、下巻」他にも大津絵関連本等もあります。ありがとうございます。



編集後記

10月は大津祭本番、まちづくり「大津百町館」がいちばん賑わう時期です。今号で取上げた畳とトンネル&湧水の話については、内容が濃く沢山書くことがあったのですが限られたスペースであったため中途半端となりました。今後の号で改めて掲載できればと考えています。 [K. A]